

JR総連特執 四茂野修さん証言

「業務上横領」はデッチ上げた!

業務上横領事件・国家賠償請求訴訟(2.15国賠)証人尋問

12月11日、東京地裁で、JR総連の事務所などを家宅捜索したことが違法であるとして、東京都と国を訴えている国家賠償請求訴訟の口頭弁論が開廷され、JR総連特執の四茂野さんと警視庁公安部下園警部の証人尋問が行われました。

四茂野さんは、日本鉄道福祉事業協会の資金運用の事実を具体的に証言し、佐藤政雄さんが「横領」したとする公安警察のシナリオはデッチ上げであることを明らかにしました。また、2003年から繰返されてきた弾圧・不当家宅捜索による押収物を見れば、「横領」など存在しないことは「公安が一番知っているはず」であり、一連の家宅捜索がJR総連に対する政治弾圧であることを強く訴えました。

一方、下園警部は、業務上横領事件の家宅捜索の正当性を主張しましたが、不明瞭とした資金運用に対して事実を突きつけられ、横領したとする金額が全額返済されていることで、業務上横領事件が存在しないことを認めざるを得ませんでした。

また、この横領事件は「JR内革マル派の組織的犯罪と認定している」とした上で、「松崎さんの革マル派最高責任者として活動である」と証言しました。さらに驚いたことに「目黒さつき会館にいる人は全て革マル派である」と「JR総連関係者から聞いている」と証言し、JR総連が過激派・革マル派であるとする根拠を、「JR総連関係者から聞いた」と言い切りました。まさに、下園警部がいう関係者とは、嶋田一味のことであり、公安警察の協力者として蠢いていたことが、またまた明らかになりました。

**警視庁公安部下園警部に
デタラメな情報提供した嶋田一味!**